

学術シンポジウム 初めて知った川の流れのへえ!?



里のギャラリー 24

百害あって一利なしの税金ムダづかいに対し、栃木・茨城両県の那珂川に関係する7つの漁協が、工事の差し止めを求め裁判に訴えていることは本紙でもお伝えしています。

9月6日、「霞ヶ浦導水事業は那珂川のアユと自然環境にどのような影響を及ぼすか」を考える学術シンポジウムが城里町で開かれました。多額の税金が投じられている同事業ですが、霞ヶ浦の浄化には役立たず、いっぽう那珂川の生態系を大きく損なうおそれがあることが、多方面の専門家から報告されました。

中身の濃い、そして志の高い、へえと驚くばかりの発表がつづきましたが、そのなかから一つだけ紹介してみます。

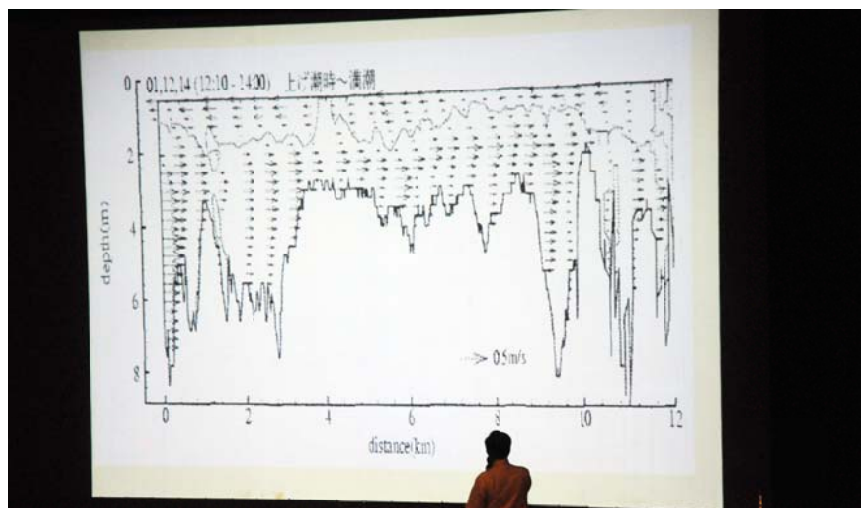
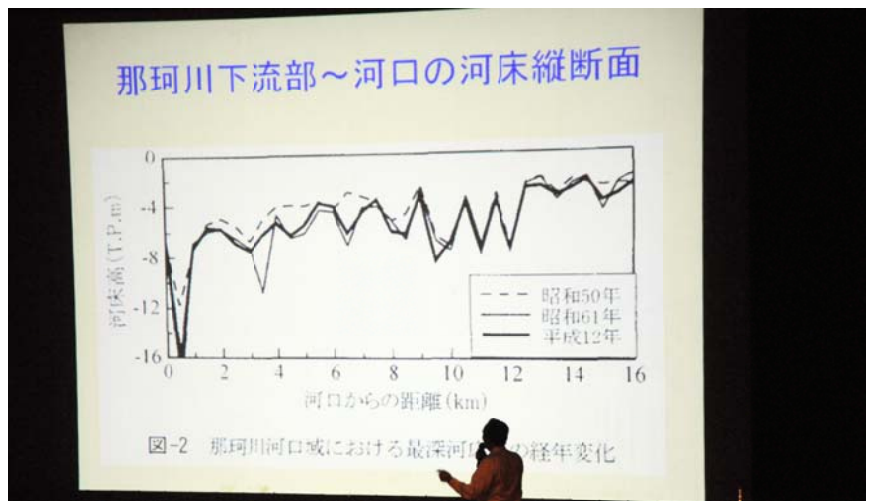
右は、会場で映写された一連のスライドを複写した写真です。那珂川の断面と、水の動きが示されています。いちばん下の画面でまとめられています...

● 那珂川の河床は、河口から20kmまで海面下にある。

● 河口から約12km上流まで底層は、ほぼ恒常的に海水が上流に逆流している。

● 海水が侵入する範囲は、川の流量が減るほど上流へ拡大。過去の最大記録は20km近い。

...というようなこと、知ってた?



那珂川河口～下流部の環境構造

- 那珂川の河床は、河口から約20km上流まで海面下にある
- 河口から約12km上流までの底層は、ほぼ恒常的に海水が上流に逆流
- 海水が侵入する範囲は、川の流量が減るほど上流へ拡大。過去の最大記録は20km近い。